

高度医療で地域を支える

日本は超高齢社会を迎え、平均寿命はますます延びる傾向にありますが、平均寿命と健康寿命は約10年の差があり、その原因は関節疾患が多くを占めています。よって関節疾患の予防、治療することが非常に重要であり、特に下肢



みながわ・ひろし 岡山大学医学部卒。同大学院博士課程修了。同大整形外科、津山中央病院、岡山ろろさい病院などを経て、2017年から再び津山中央病院勤務。岡山大学整形外科臨床教授。医学博士、日本整形外科学会専門医。

⑨ チーム力でなし得る“下肢関節疾患に対する人工関節による治療、

津山中央病院主任部長・人工関節センター長
皆川 寛



治療支援アプリのための多職種連携チーム

関節疾患においては、疼痛、歩行障害による日常生活動作制限が顕著となるため、運動療法、装具療法、薬物療法を組み合わせた治療に取り組んでおりますが、保存療法に抵抗を示す症例や疼痛が強くて日常生活動作制限が著明な症例は、人工関節置換術を選択しています。

人工関節置換術とは、関節の傷んでいる部分を取り除き、人工の関節に置き換える手術であり、関節の痛みの原因となるものを全て取り除くので、除痛効果が大きいのが特徴です。

私は「安全で確実な手術」を信念に診療に当たっており、入念な術前計画のもとに正確な手術を遂行し、術後合併症を長期にわたって発生させないことを目標として

おります。そのためには術前計画が非常に大切で、術前に3Dで計画を立てて、難治例には先に骨モデルを作成してから手術を進めていくようにしており、また術中ナビゲーションを使用することもあります。

■股関節

術後にはその特徴的な合併症である、脱臼のリスクが考えられるので、脱臼予防のために以前は日常生活動作制限を行っていましたが、現在は制限を設けておりません。そのため、人工関節設置角度の精度の向上、脱臼のリスク評価を行い、ハイリスク例には脱臼しにくいタイプのインプラントの使用を考慮しています。また、術後早期の除痛と早期社会復帰を目的に可能な範囲で筋・腱を切離さない最小侵襲手術を選択しています。

■膝関節

関節の損傷が内側にとどまる場合には、関節の一部だけを人工関

節へ置き換える人工膝単顆置換術を行い、低侵襲化に努めています。

■治療支援アプリ

当院では医師、リハビリ、看護師、栄養士、事務などの多職種でチームを編成し、スマートフォンを使用した治療支援アプリを導入しています。これらにより術前の準備、術後の回復をサポートする情報が必要なタイミングで確認でき、エクササイズを紹介、歩行目標や達成度の確認などを、医療従事者と共有しながら、安心して治療に臨んでいただけるようになっています。

究極の目標は、手術したことを忘れてしまえるほどの回復と考えており、地域の方がきちんとした治療をこの地域内で受けられるように、日々研さんを積み診療に励んでいます。

津山中央病院（0868808111）。連載は今回で終わります。